

政策	65 多様な地域間交流の充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民全般						
施策が目指す姿	国内自治体との様々な連携強化が図られるとともに、グローバル時代に対応した人材育成等に資する国際交流が展開されている。地域間における市民・団体等の交流の推進により栃木市の一体感の醸成が図られている。						
成果指標	地域間や国内外の人との交流が増えていると感じる市民の割合...5年間で35.0%（現状値28.5%） 国際交流協会会員数...5年間で480人（現状値432人）						
目標達成状況		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [%]	予定				35.00	
		実績					
	成果指標2 [人]	予定	432.00	450.00	460.00	470.00	480.00
		実績	443.00	359.00	318.00		
	成果指標3 []	予定					
		実績					
	成果指標4 []	予定					
実績							
トータルコスト (千円)	予定	32,280	33,175	39,521	0	0	
	実績	35,086	30,165	39,521	0	0	
内部評価	貢献度	基本方針が目指す地域交流の活発化やいきいきと賑わいのあるまちづくりを進めるうえで、本基本施策の目標達成は大きく貢献するものである。					
	達成状況	予定した交流事業はほぼ開催できず、目標を大きく下回る結果となってしまった。					
	課題	コロナ禍で対面での交流が当面困難であるため、開催方法の工夫が必要である。また、定着しつつあった全市的イベントを継続させる必要がある。					
	取組方針	交流事業について調査研究を進め、オンラインでの開催や、有効な情報発信に努める。また、関係団体等との連携強化を図り、多文化共生事業を推進する。					
外部評価	コロナ禍による影響でイベントの参加者数は減少しているが、開催方法等を工夫した取り組みを検討し、事業を継続して欲しい。 市内には様々な国の外国住民がおり、言語の種類等も多く大変だと思うが、積極的な情報発信などに努め、交流を進めてもらいたい。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称			トータルコスト(千円)	達成度	
	6501	国内・国際交流の推進			29,288	13	
	6502	全市的的交流イベント開催の推進			10,233	9	

基本施策評価表 補表

施策	65 多様な地域間交流の充実		
区分	妥当性	妥当	実施主体、実施方法ともに妥当である。
	コスト削減の余地	有	イベント事業の実施方法の工夫により、コストを削減する余地があると思われる。
	受益者負担	適正	現行の事業執行においては、適正と思われる。
	上位貢献度	有効	基本方針が目指す、いきいきと働き賑わいのあるまちづくりの達成には、多様な地域間交流の充実を推進する本基本施策の貢献度は高い。
	類似事業の有無	無	基本方針を達成するうえで、多様な地域間交流を推進することは、他に類似する施策は見当たらない。
	成果向上の余地	有	今後も各事務事業実施において、実施方法を工夫することで成果が向上する余地が見込まれる。
内部評価	貢献度	基本方針が目指す、地域交流の活発化やいきいきと賑わいのあるまちづくりを進めるうえで、本基本施策における、多様な地域間交流の充実の目標達成は大きく貢献するものである。	
	達成状況	国際交流協会の会員数について、減少傾向がみられる。 下位単位施策及び各事務事業は、台風災害や新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものを除くと、概ね順調に推移しているものと考えられる。	
	課題	国際交流イベントは、より多くの外国人住民の方に参加してもらえるように、情報発信方法の工夫が必要である。 国際交流協会会員数が減少しており、情報発信や周知の機会が少なくなっている。 また、定着しつつある全市的イベントがある一方で、各地域のイベントは、目的などを再検証する必要がある。	
	取組方針	関係団体等との連携強化を図り、有効な情報発信に努める。また、イベントの統合、再編について、関係団体と方向性を検討するとともに、新型コロナウイルス感染症と共生・共存していく新しい生活様式を取り入れた開催について検討する。	